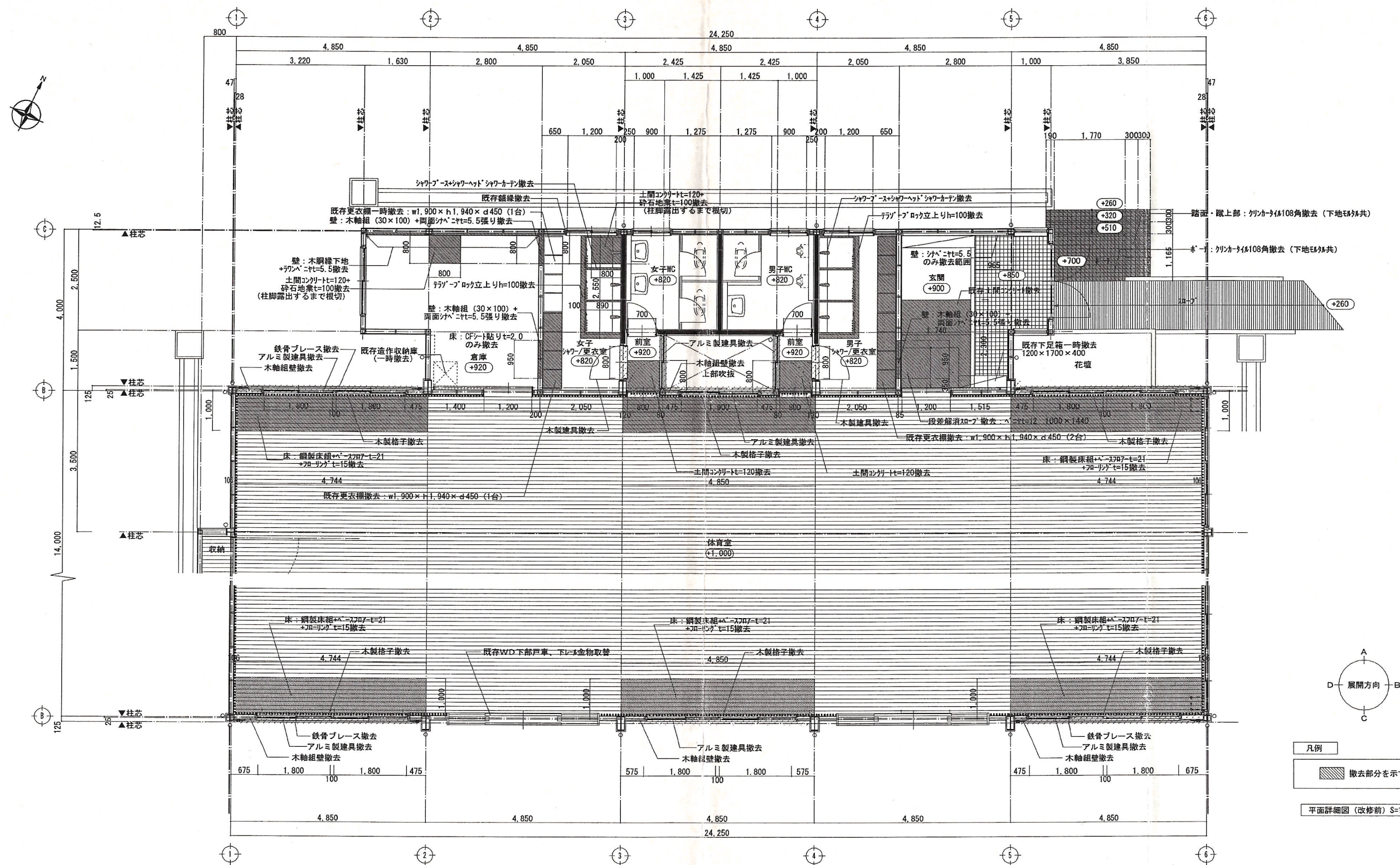
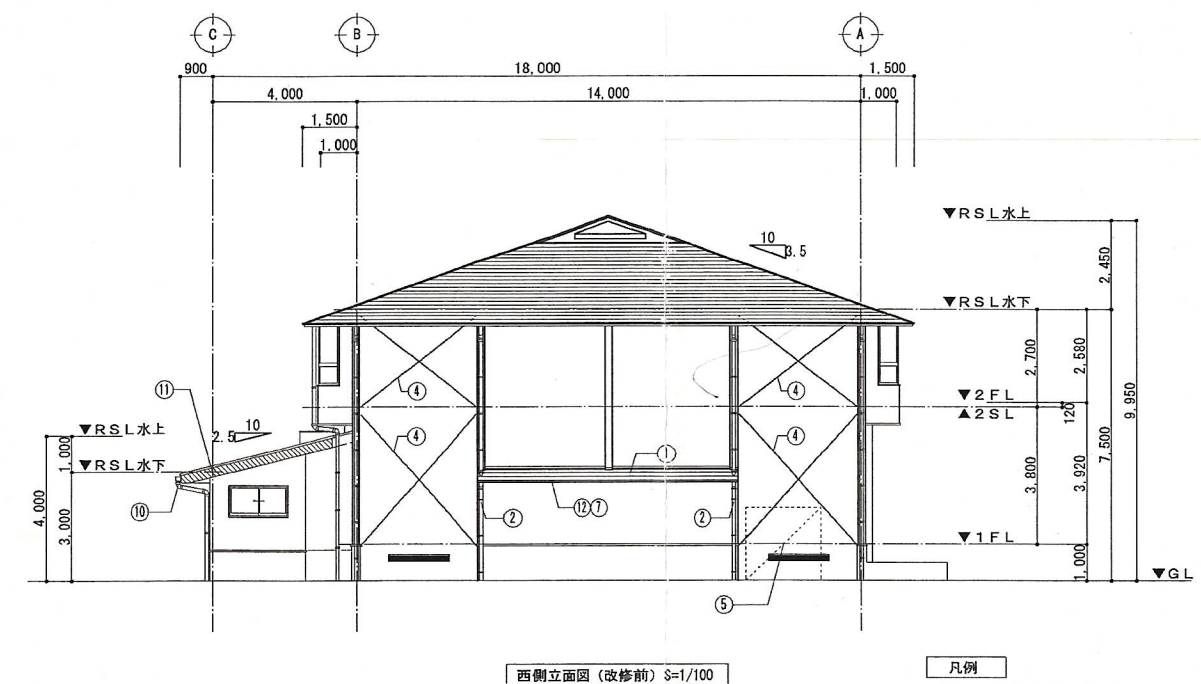
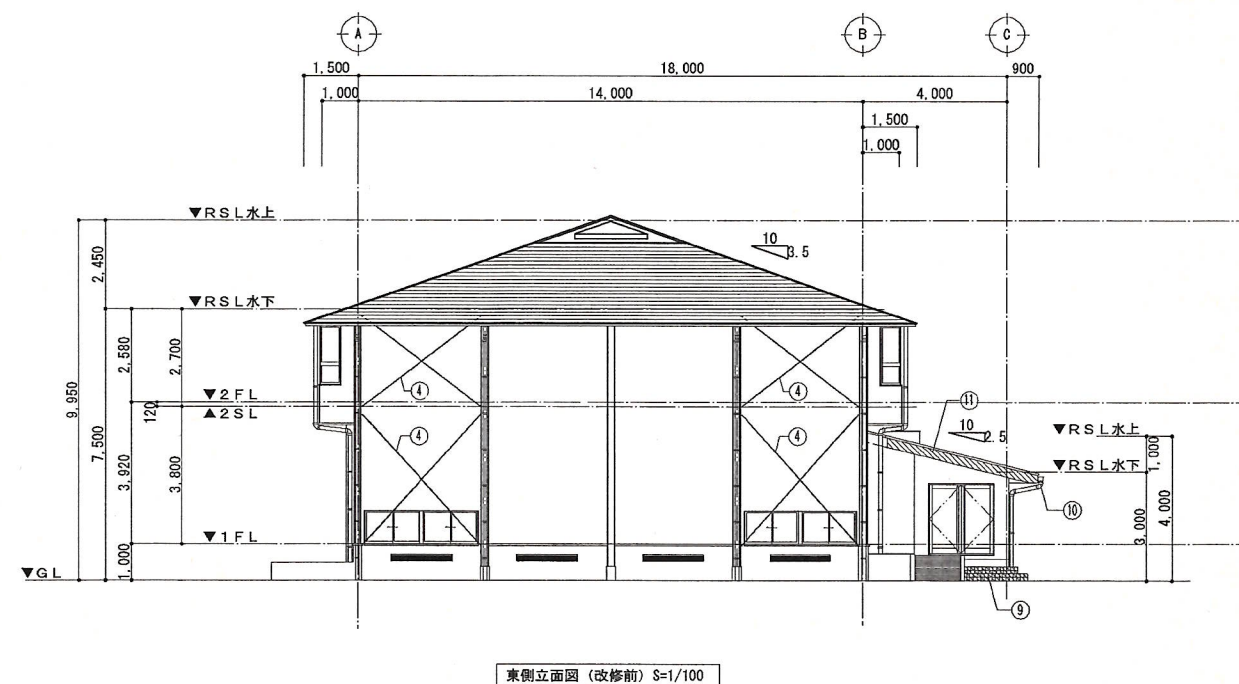
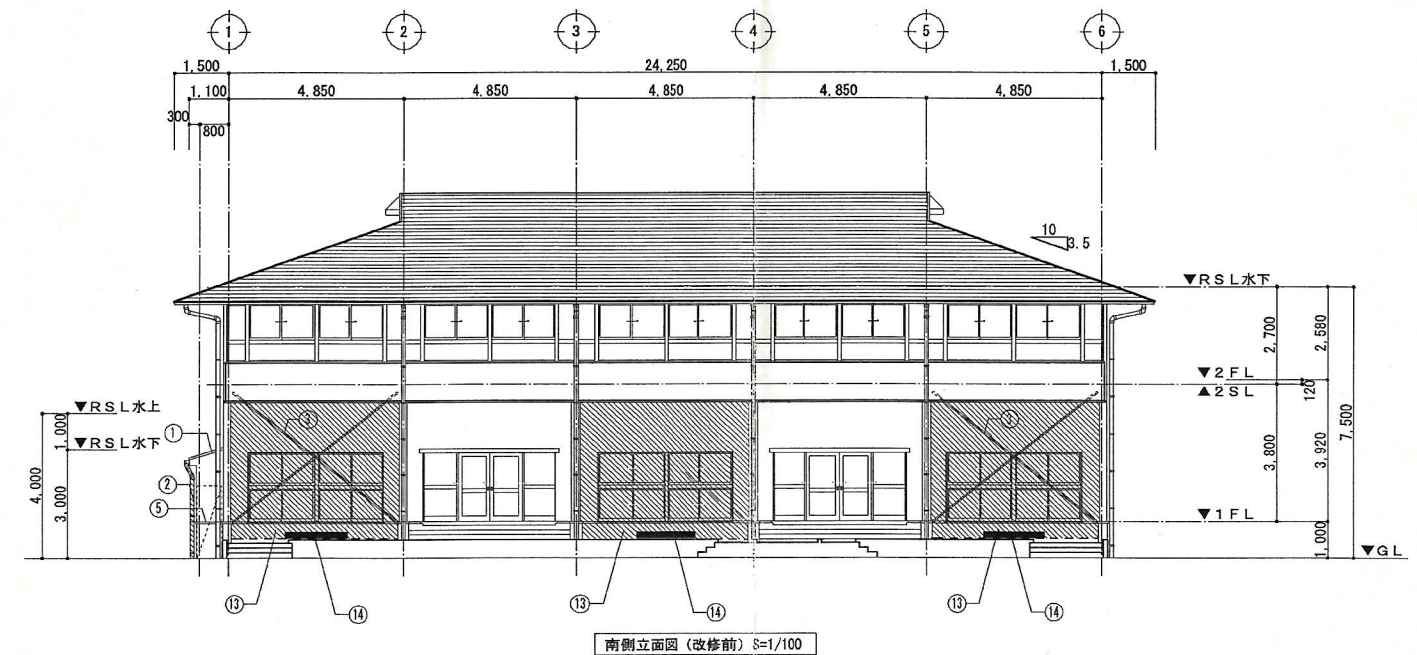
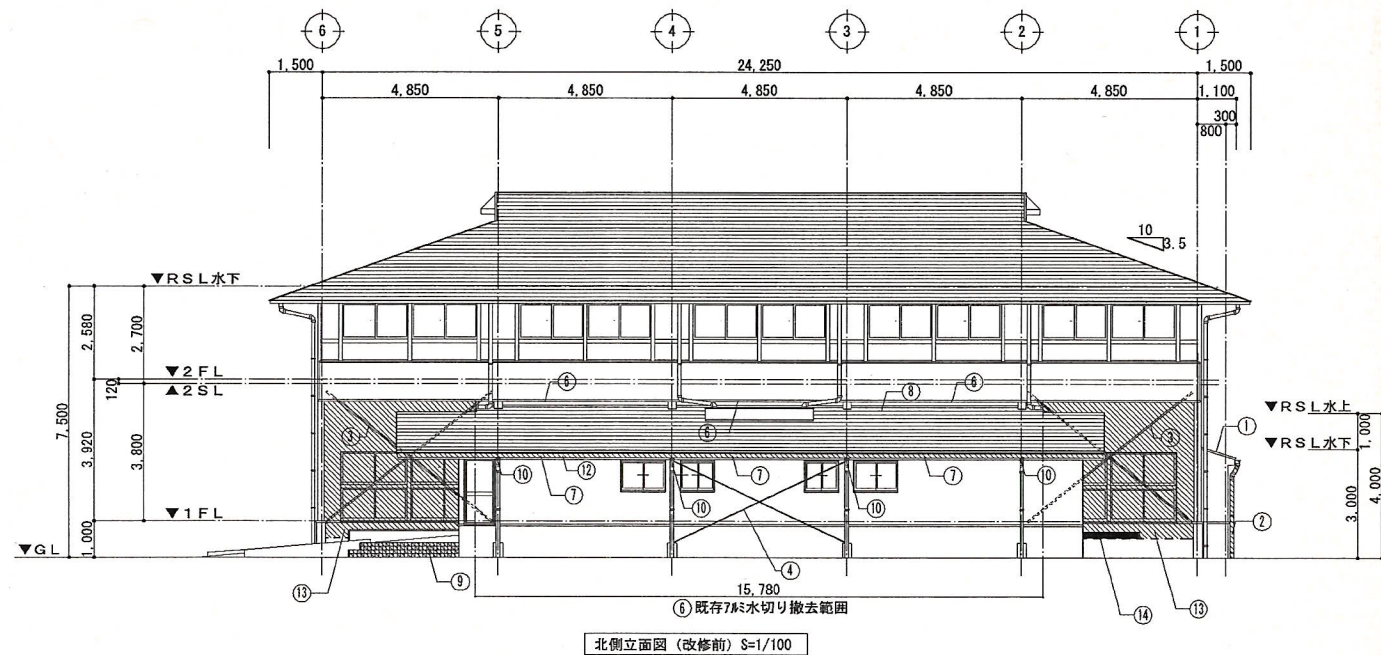


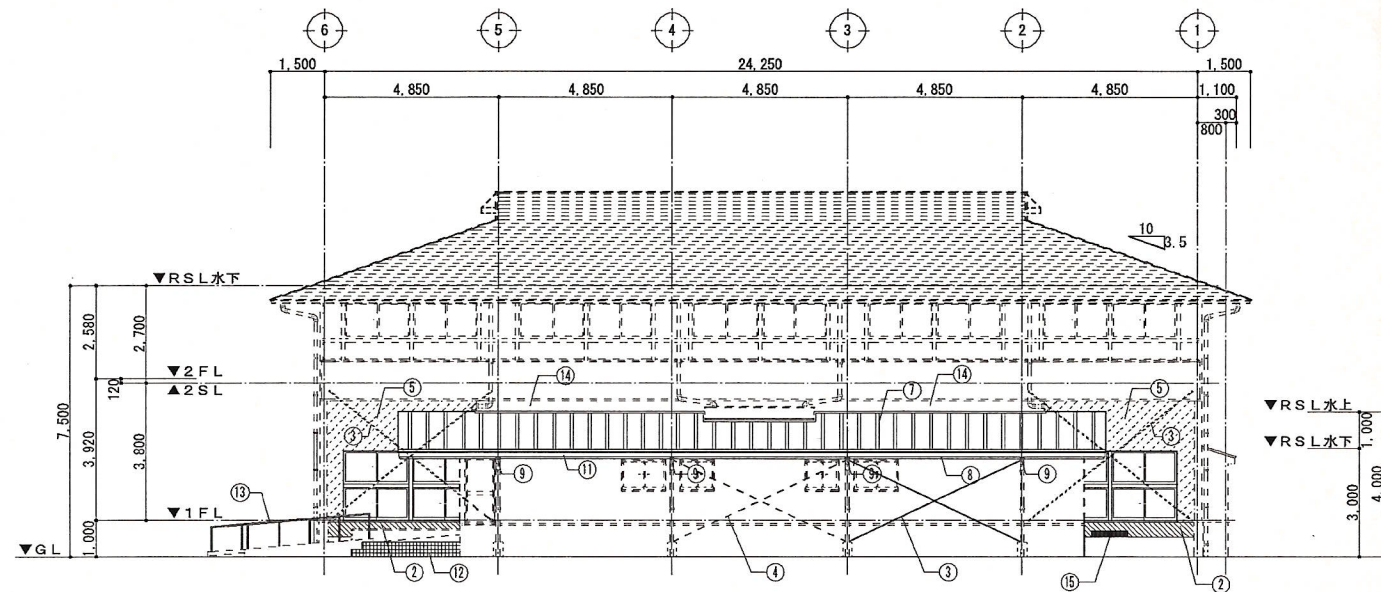


既 存 凡 例					
①	既存収納ベンチ部 既存屋根カークベ ストコロ7#共 (高圧水洗浄: 15MPa程度)	②	既存壁柱壁 製φ100撤去	③	既存壁ブレース FB-9×50 (GPL共撤去)
④	既存壁ブレース 丸鋼φ13 SOP塗装 (下地ケレンRB種)	⑤	既存物置: w2.1×d0.9×h2.0	⑥	既存7#水切り撤去
⑦	既存下屋 幕板: 亜鉛引鉄板16#マシ焼付塗装撤去	⑧	カークベ ストコロ7#共 (高圧水洗浄: 15MPa程度)	⑨	既存ボーズ 床クランク1#108角撤去 (下地共)
⑩	既存壁柱 (下屋部分) 壁 製φ100 1#より軒樋側撤去	⑪	既存下屋 カークベ ストコロ7#共 幕板: 亜鉛引鉄板16#マシ焼付塗装撤去	⑫	壁 製軒樋撤去
⑬	木軸組下地 ラスモルタル外壁撤去 (下地共)	⑭	スチール製床下換気口撤去		-----部 コンクリートカー入れ t=150

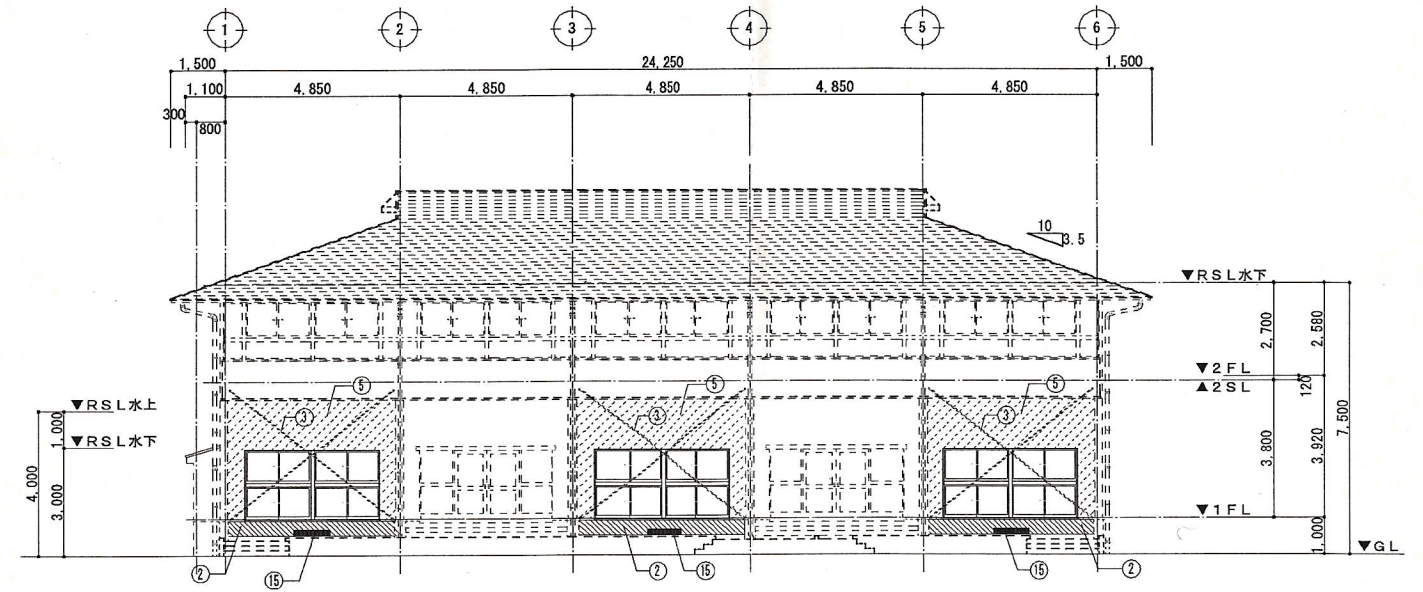


凡例
撤去部分を示す。

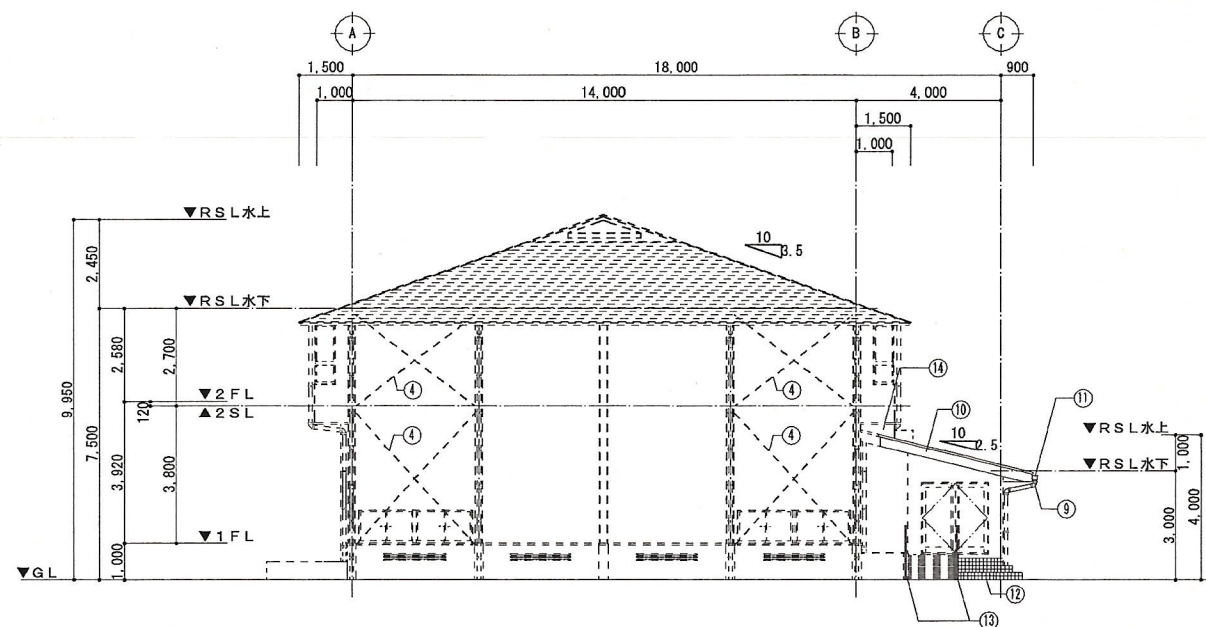
改 修 凡 例					
①	既存スラブ収納部下屋屋根 加工-工法改修 ガルバリウム鋼板 $t=0.8$ 折板葺 $H=80$ 裏貼断熱材 $t=4.0$ 発泡スチレン ゴムフォーム $t=1.0$	②	既存外壁撤去部 根廻り:スラブ下地 鉄骨押え	③	壁ブレース新設 JISブレース SOP塗装
④	既設壁ブレース 鉄骨ブレースSOP塗装替	⑤	外壁新設 外部壁:木調壁下地+防水シート +無塗装珪藻土 $t=12$ +珪藻吹付	⑥	新設 壁柱 $\phi 100$ DP塗装
⑦	既存下屋屋根 加工-工法改修 ガルバリウム鋼板 $t=0.8$ 折板葺 $H=80$ 裏貼断熱材 $t=4.0$ 発泡スチレン ゴムフォーム $t=1.0$	⑧	既存下屋屋根部分 新設 珪藻土 $t=0.8$ (曲げ加工)	⑨	既存壁柱部分撤去 壁 $\phi 100$ 軒側側壁より軒側側補修
⑩	既存下屋屋根部分 新設 珪藻土 $t=0.8$ (曲げ加工)	⑪	既存下屋軒柱取替 塩ビ製 $\phi 120$ 前山高 $H120$ (下屋部分のみ改修)	⑫	木調床 $\phi 100$ 下地 $\phi 100$ の上磁器質 $\phi 100$ 角張り新 (ノスリッパ)
⑬	既存スラブ側面手摺設置 手摺: SUS304 $\phi 34.0$ HL仕上 $H=800$ $L=4.14m, 6.0m$	⑭	下屋納まり外壁新設 外部壁:木調壁下地+防水シート +無塗装珪藻土 $t=12$ +珪藻吹付	⑮	床下換気口新設 スチール製 $\phi 100$ 防虫網付 (ボルト取付)
⑯		⑰			



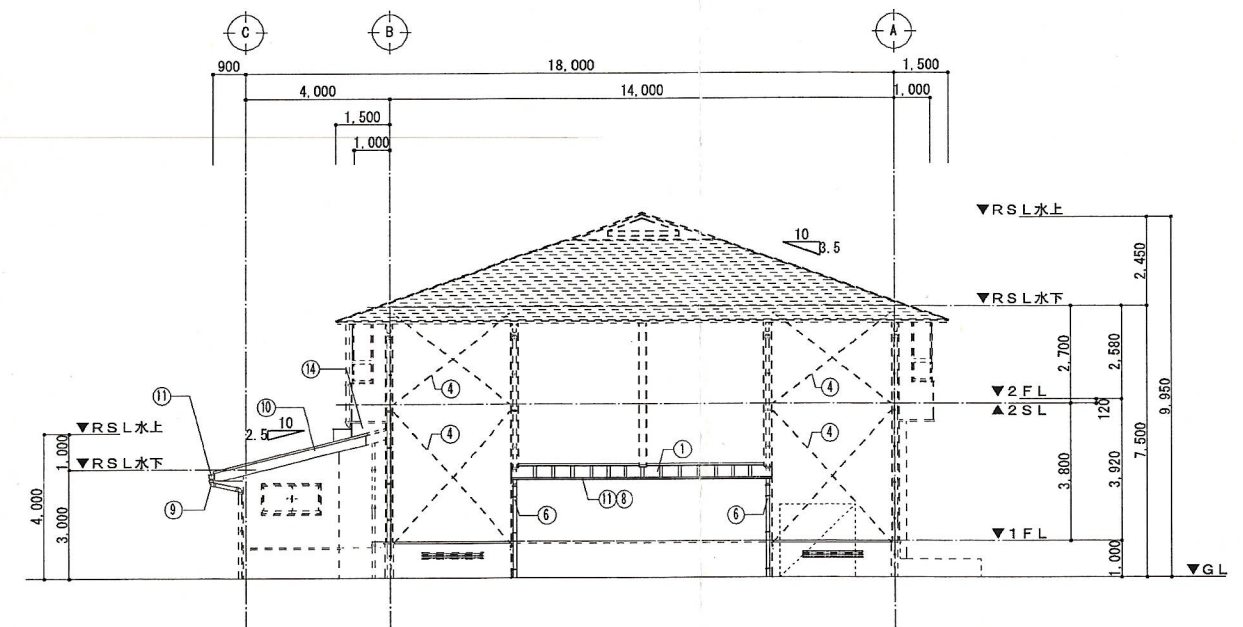
北側立面図 (改修後) S=1/100



南側立面図 (改修後) S=1/100



東側立面図 (改修後) S=1/100



西側立面図 (改修後) S=1/100

Project

七滝社会教育センター (体育館) 耐震改修工事

Drawing Title

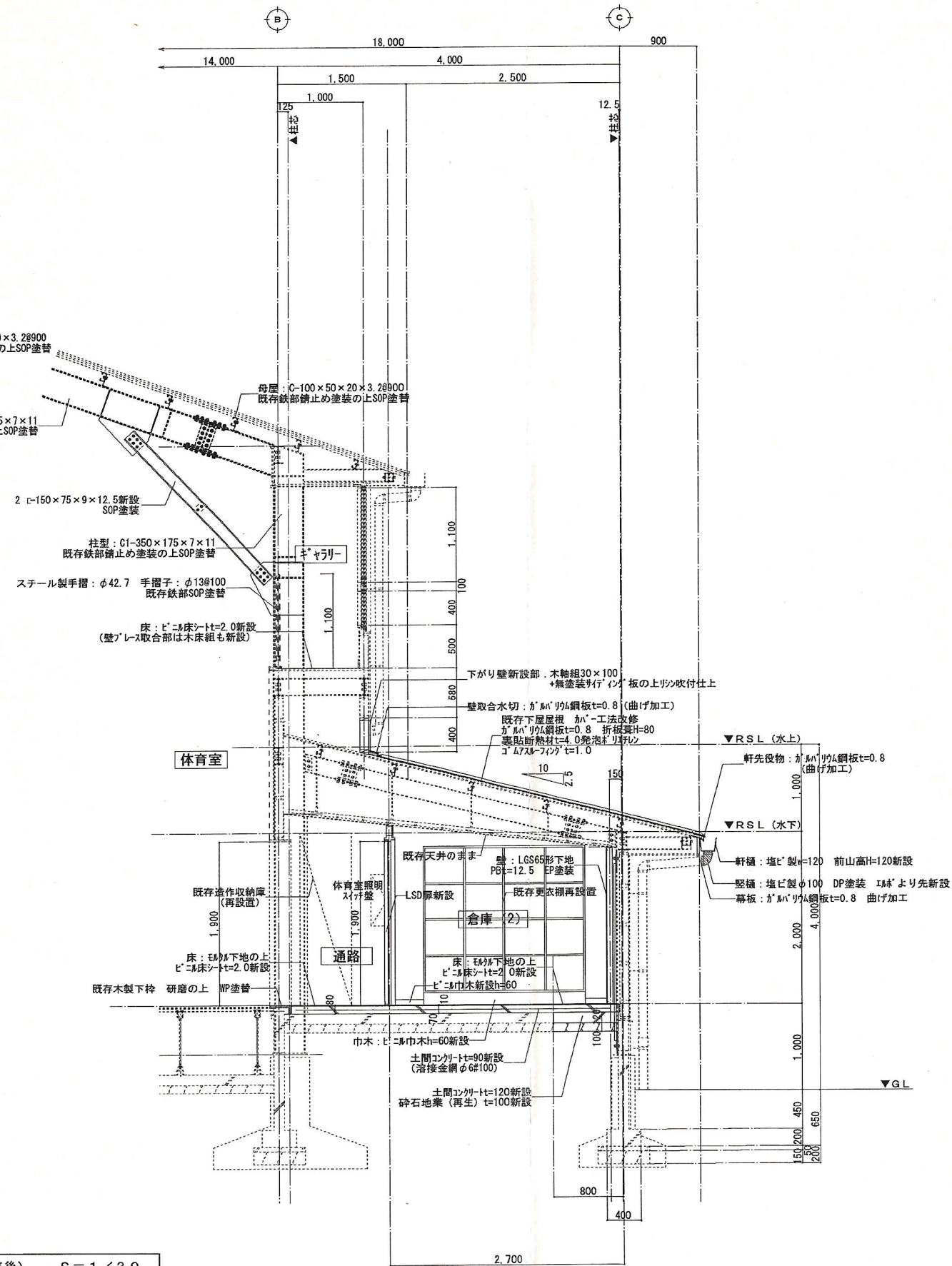
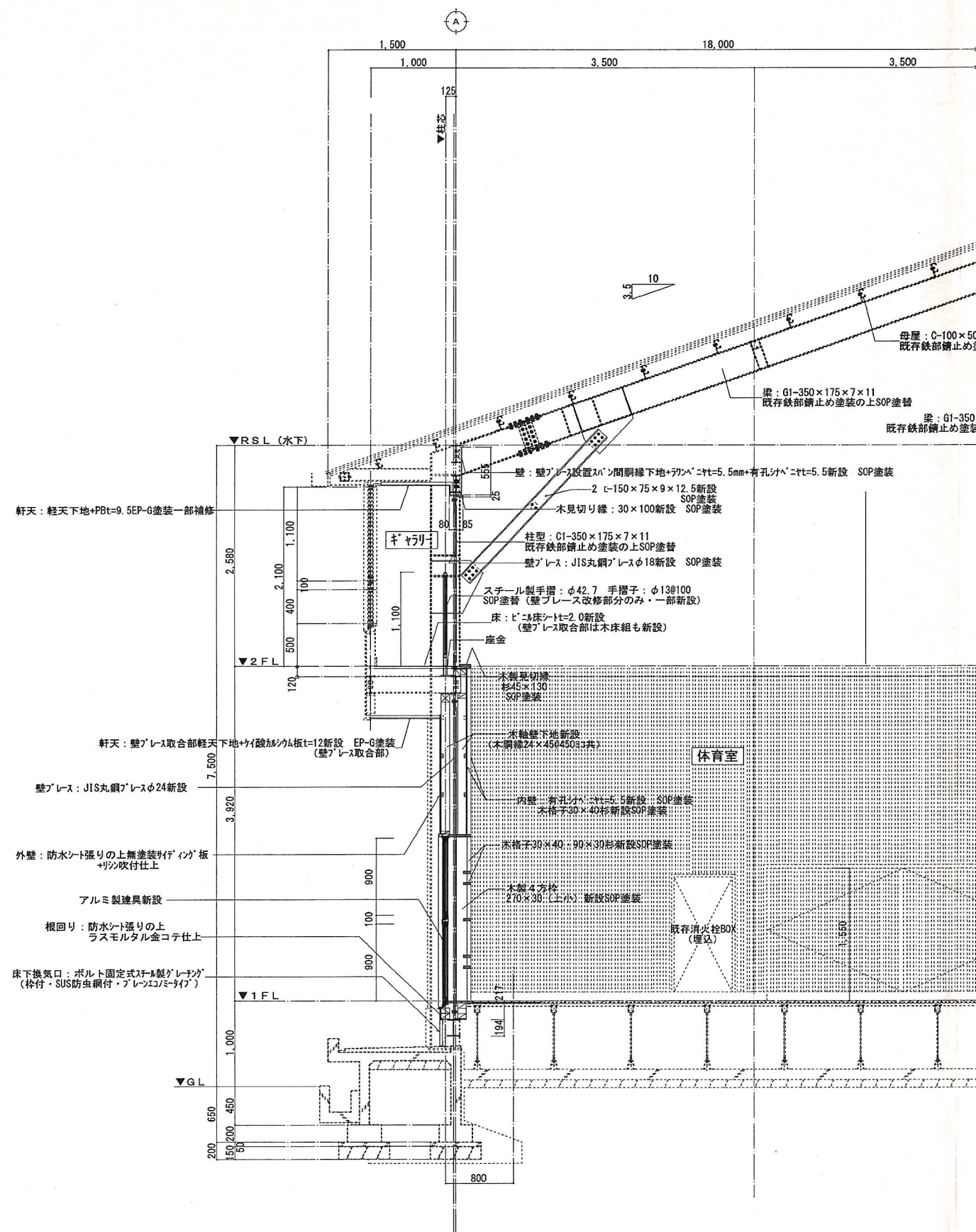
立面図 (改修後)

Scale

A 1 : 1/100
A 3 : 1/200

Drawing No.

A-07



矩計図（改修後） S = 1 / 3 0

Project

七海社会教育センター（体育館）耐震改修工事

Drawing Title

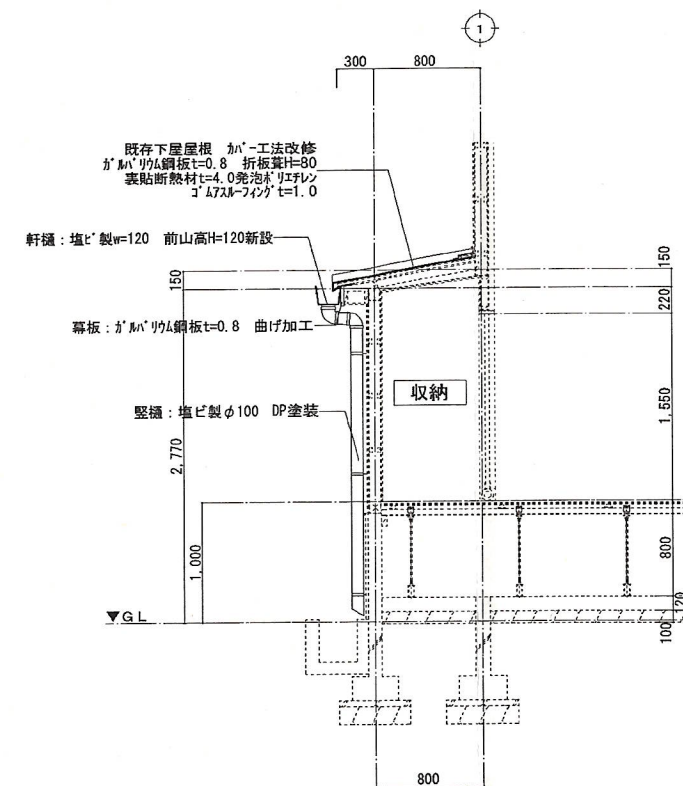
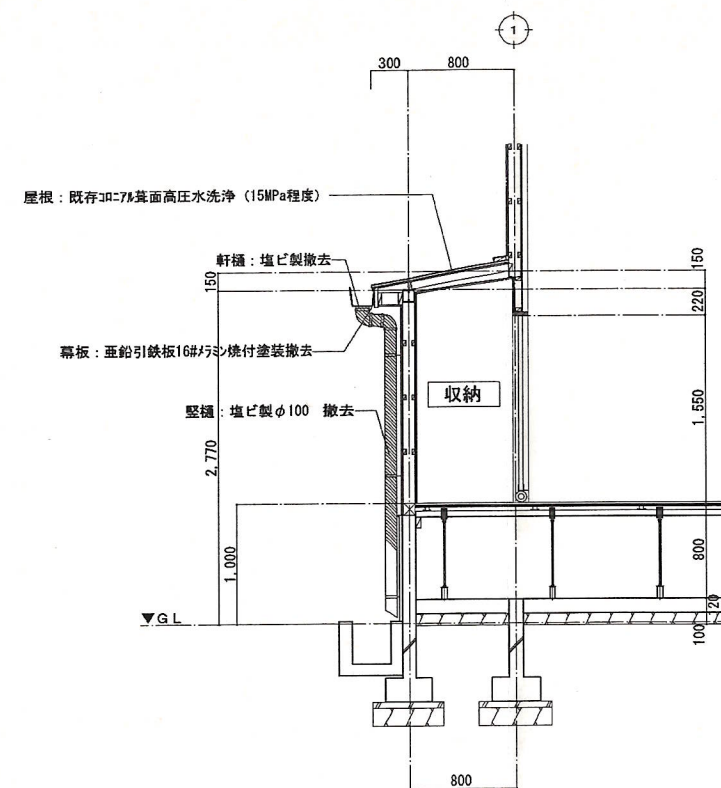
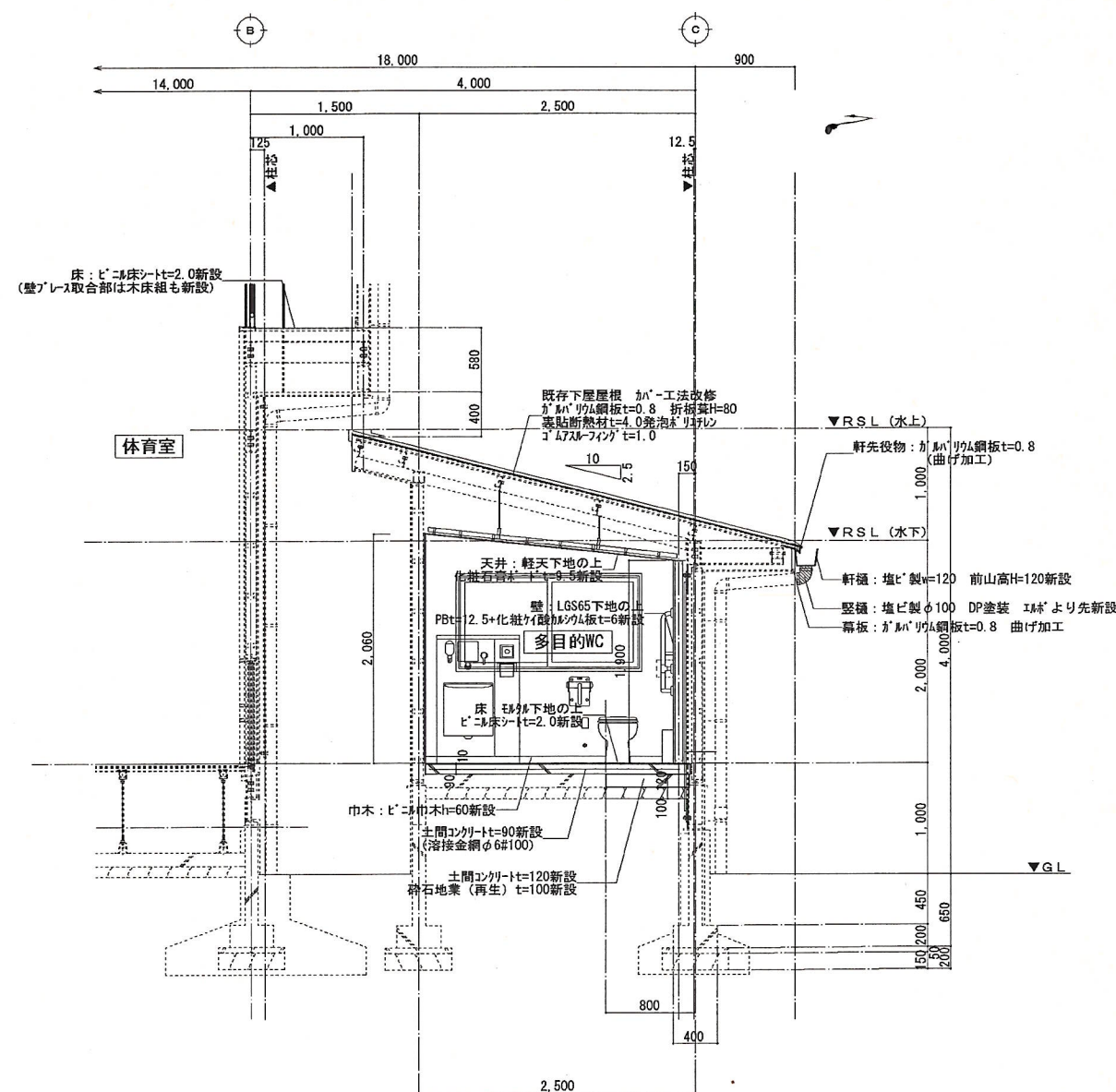
矩計図（改修後）

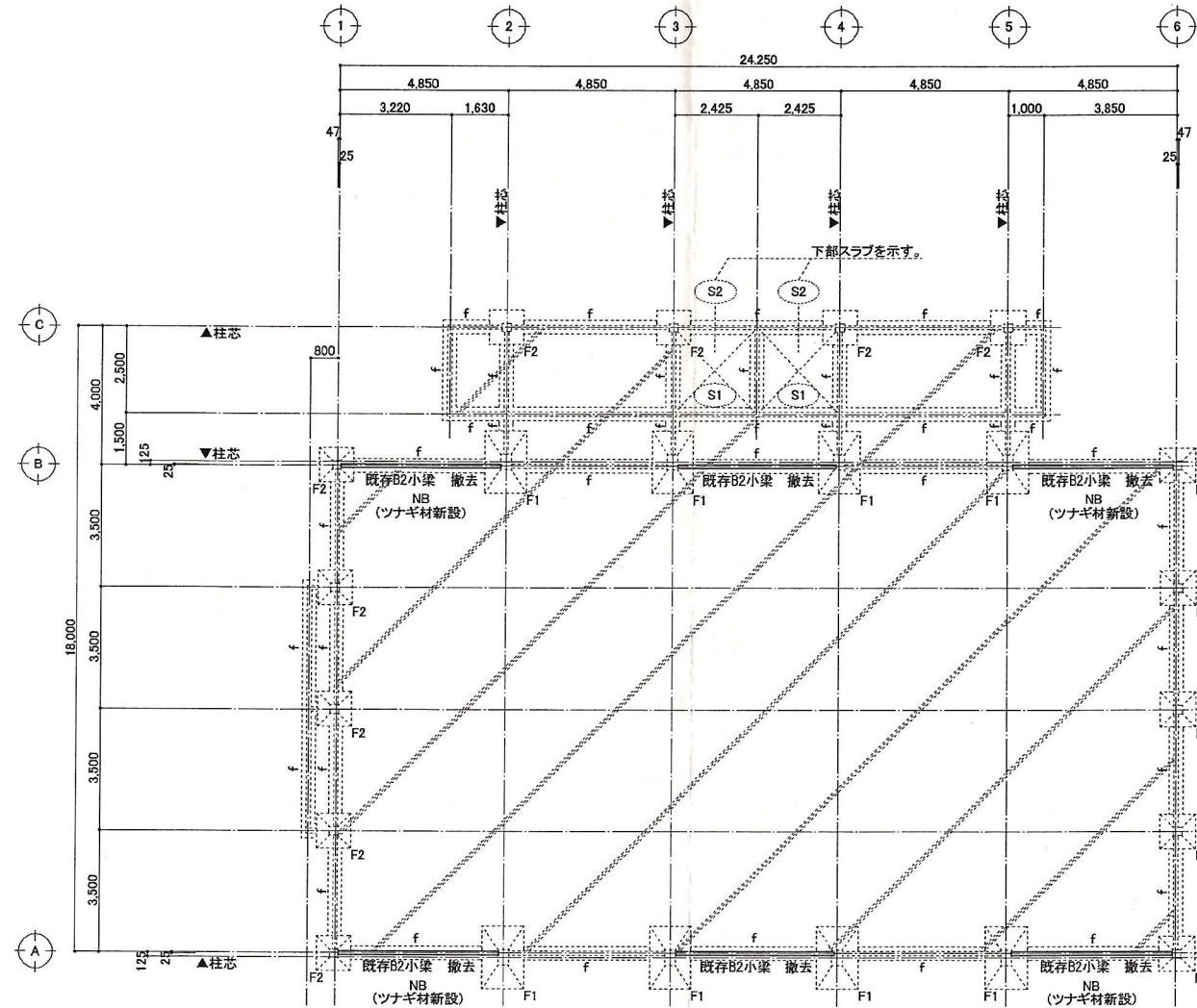
Scale

A 1 : 1/30
A 3 : 1/60

Drawing No.

A-09





補強基礎伏図

Project

七滝社会教育センター（体育館）耐震改修工事

Drawing Title

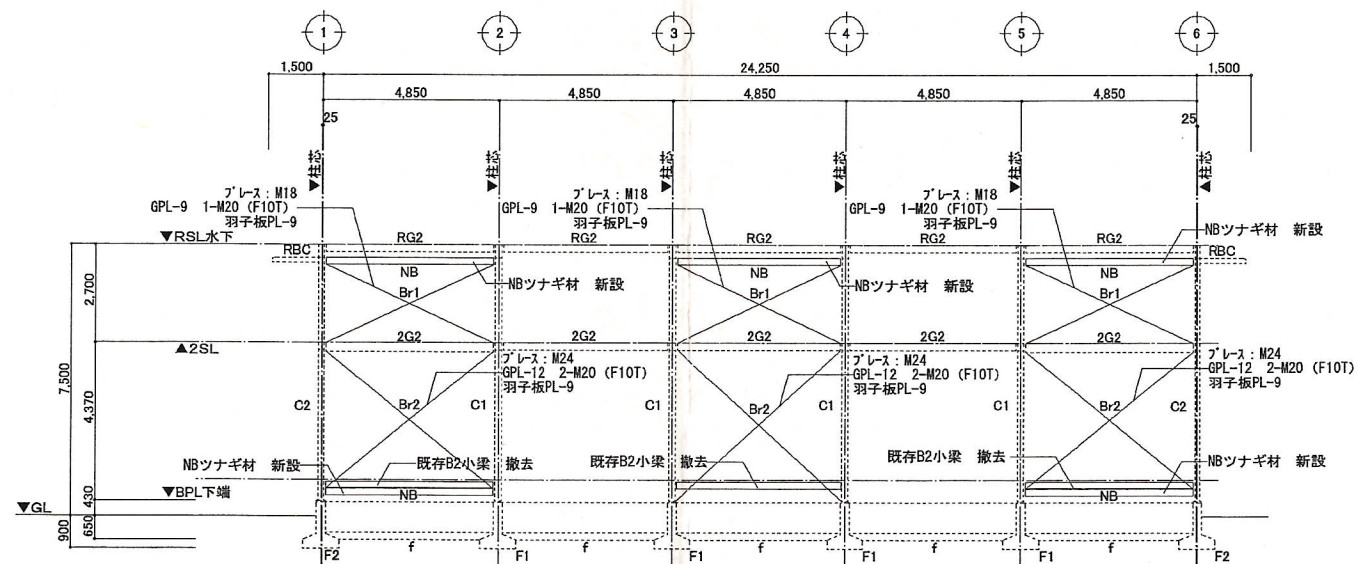
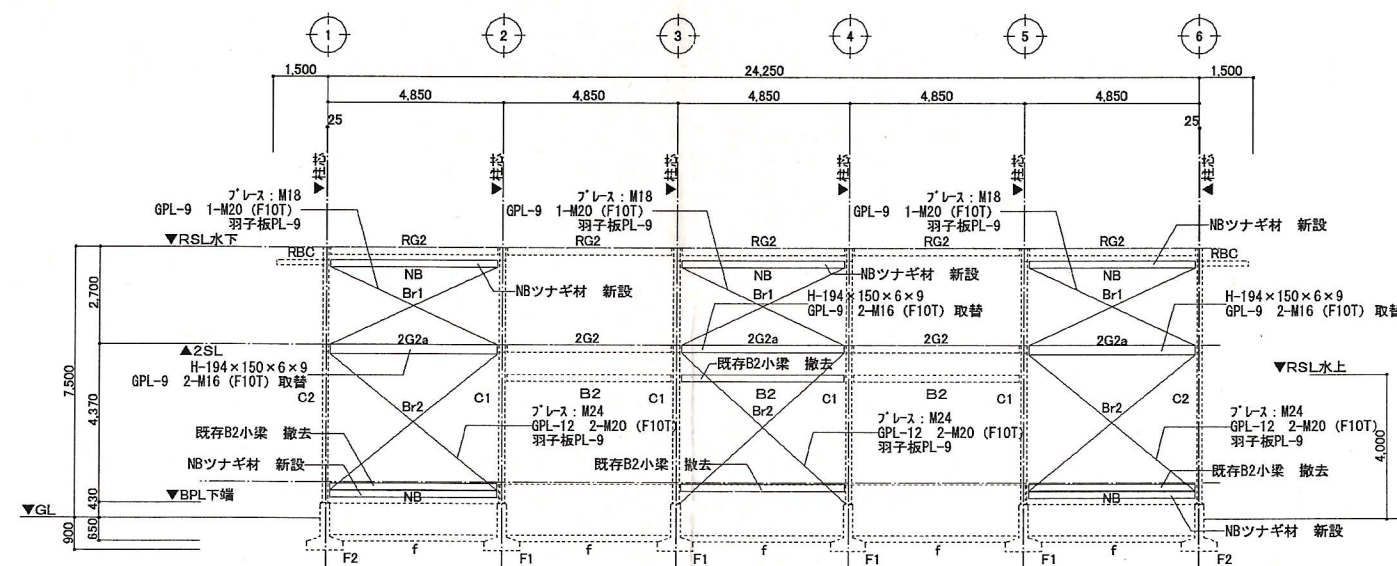
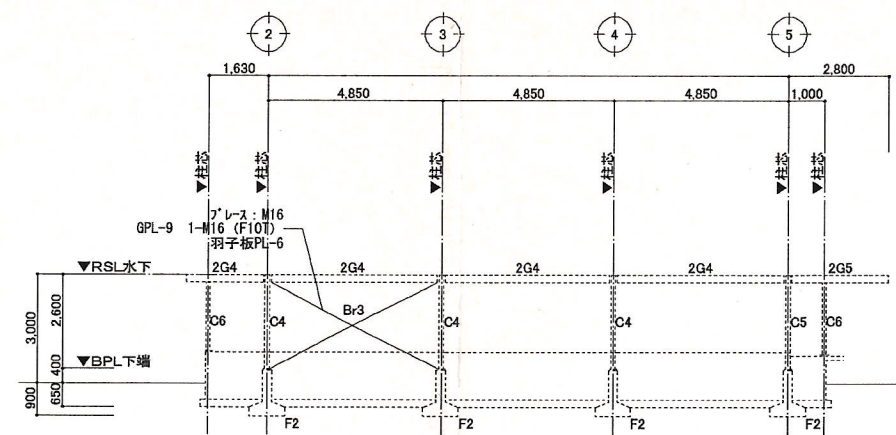
補強基礎伏図

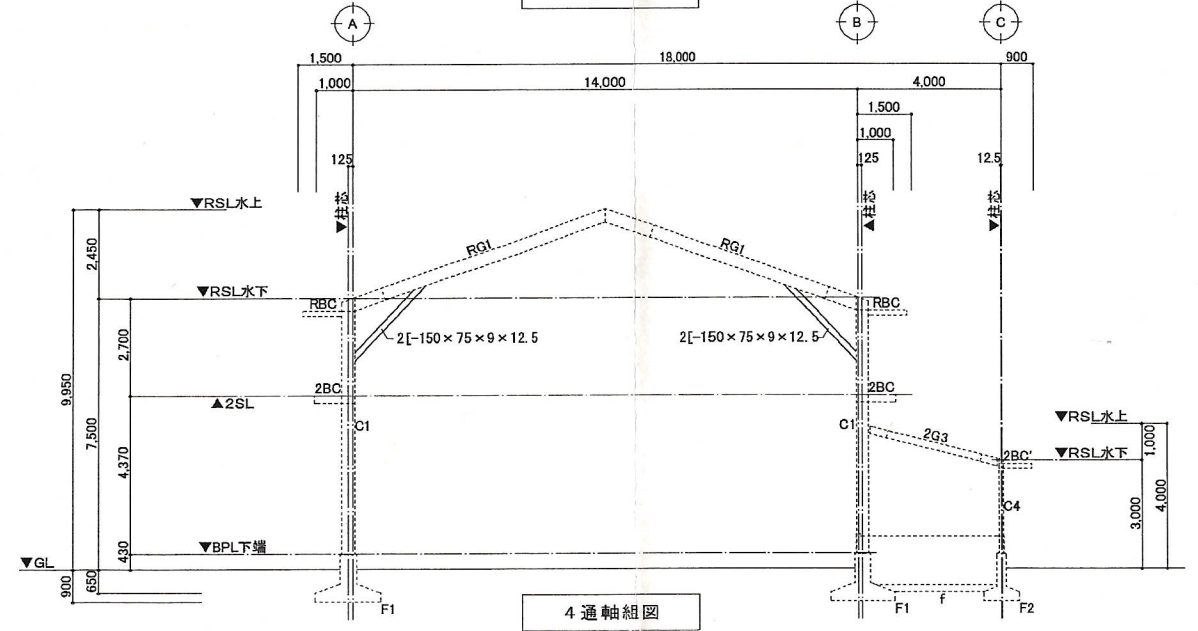
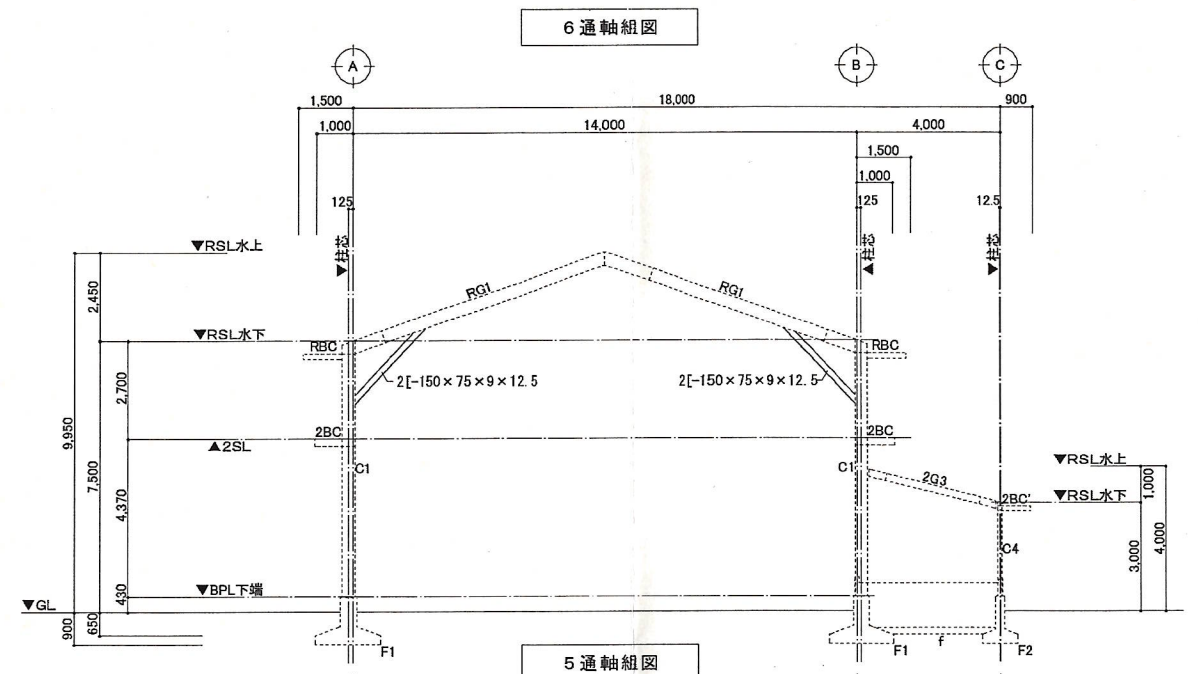
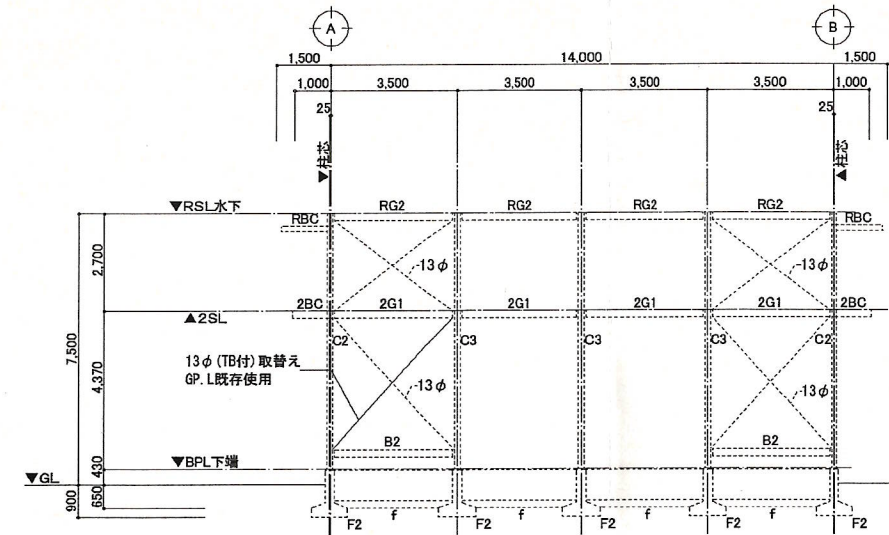
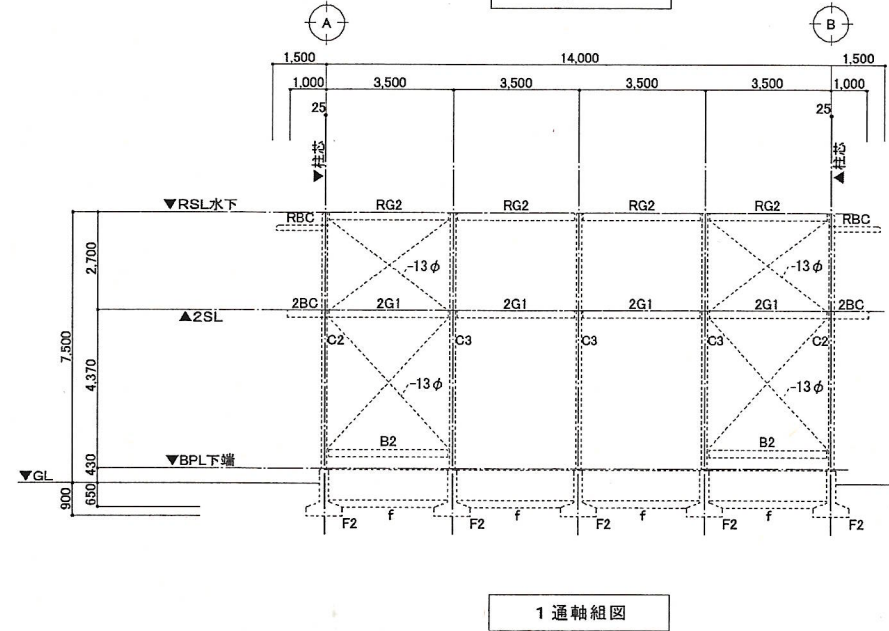
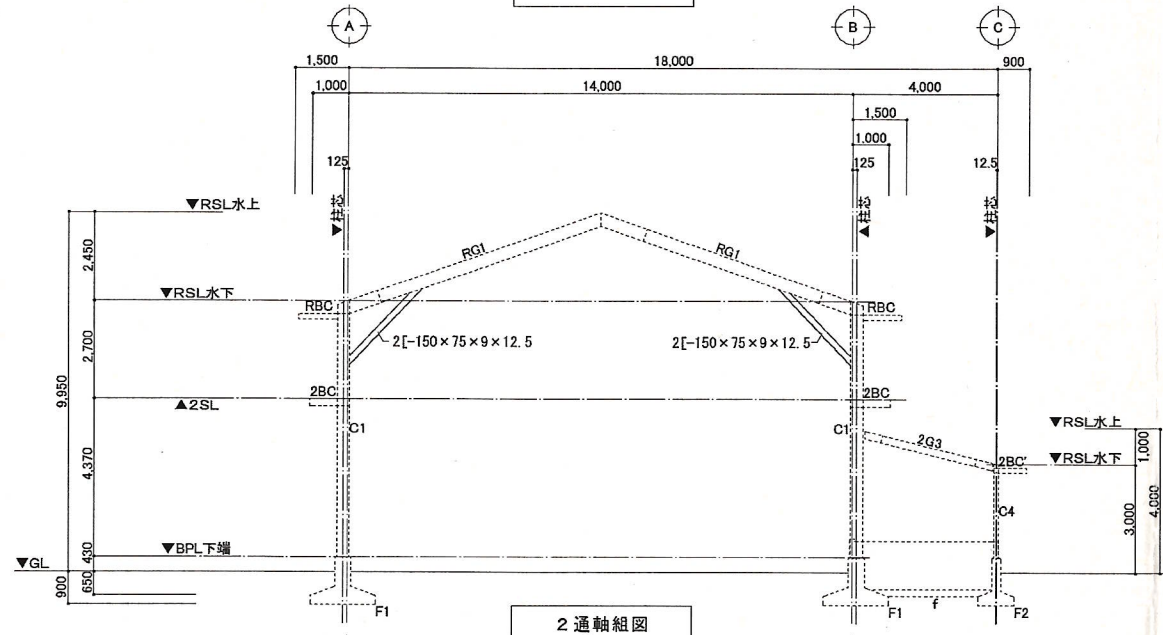
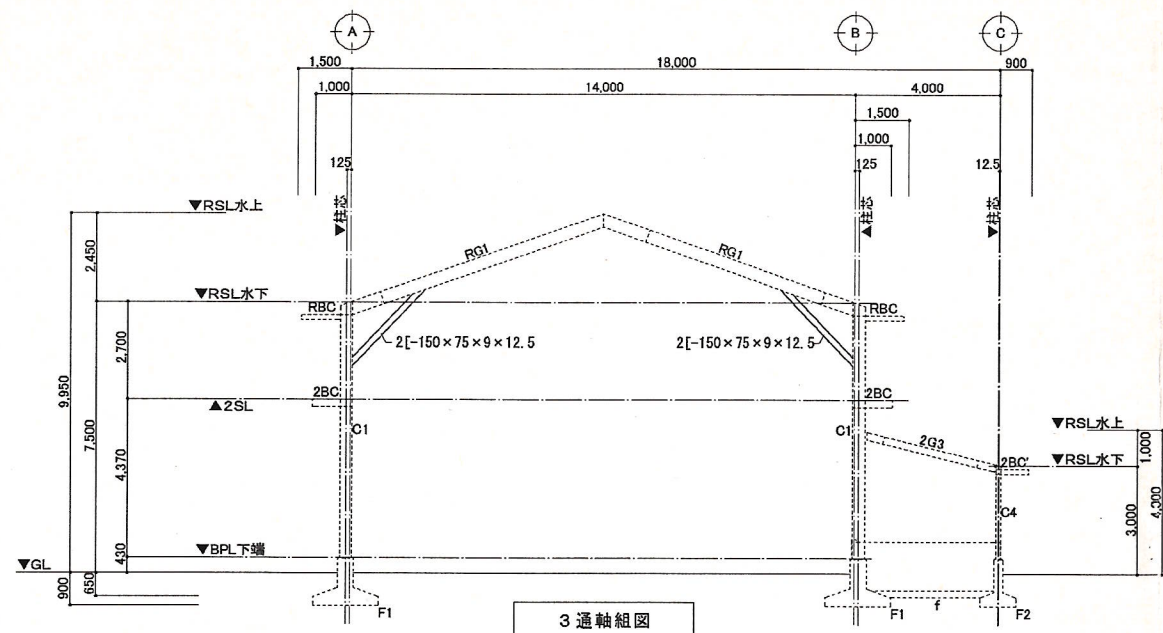
Scale

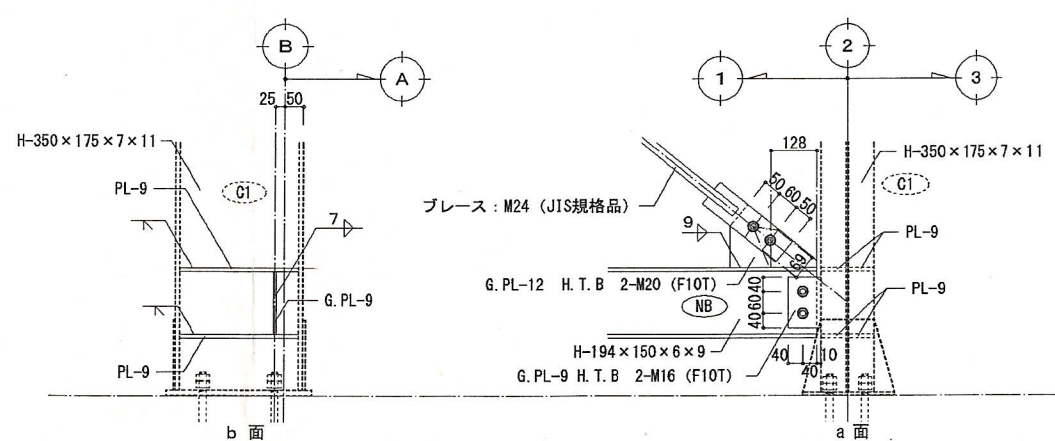
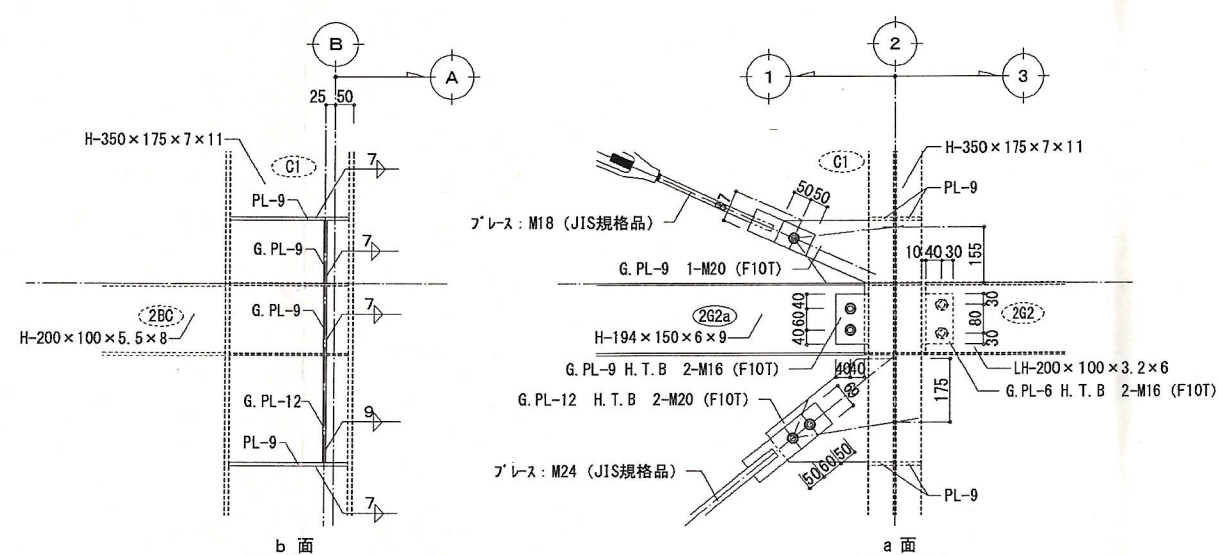
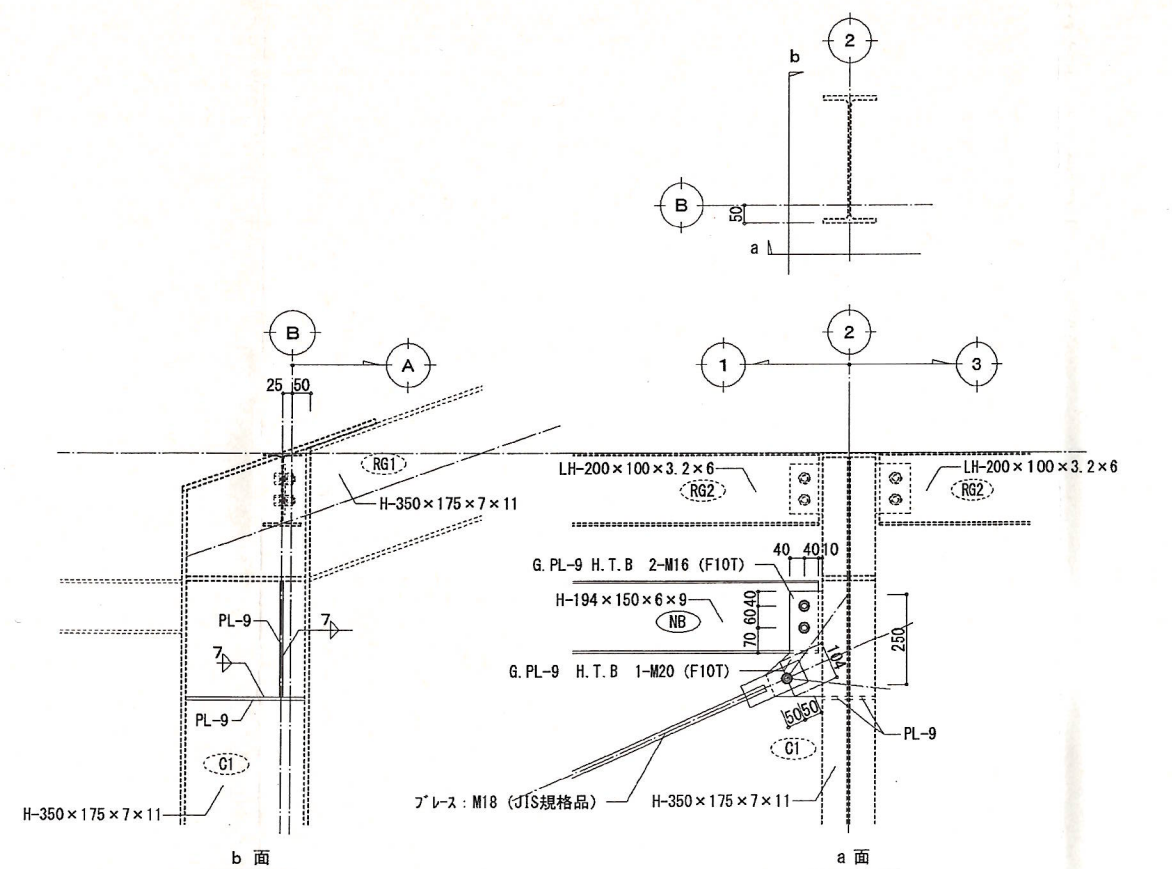
A 1 : 1/100
A 3 : 1/200

Drawing No.

S-02







溶接標準図

隅肉溶接 $t \leq 16$

余盛 (0.1S+1) 以下

t = 板厚

t (t_1 と t_2 の小さい方)

6 以下

9

12

14

16

S

t

7

9

10

12

※角パイプの、のど厚は 1.4 t まで可能とする。

隅肉溶接 $t > 16$

エンドタブ

フラックスエンドタブを標準とするが銅製エンドタブを使用する場合は、
両端に継手と同じ形状のエンドタブを取付ける。

その長さ (1) は 3.5 以上、かつ薄い方の板厚の 2 倍とする。

スカラップ

☐ ノンスカラップ

☐ 改良型スカラップ

改良型スカラップは

$R = 3.5 : 1.0$ を標準とする。

記・号	形 状	適用板厚	寸 法
W_1	隅肉溶接 (上面による)	上面による	上面による
W_2		$6 < t \leq 12$	R 6 ± 2
			r 0 ~ 2
		$12 < t \leq 32$	R ≤ 3.5
			r 0 ~ 2
			R ≥ 3.5

